

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4272200041		
法人名	株式会社グループホームおくら		
事業所名	グループホームおくら	ユニット名	
所在地	長崎県五島市奥浦町1321番地6		
自己評価作成日	2023年 12 月 26 日	評価結果市町村受理日	2024年 3月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topijevosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2024年 1月 18日	評価確定日	2024年 2月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

○ケアプラン第1表、2表を見直し、それを踏まえてご本人様の目標を作成していく
 ○心身の維持向上を目指し、主治医にリハビリ内容などを相談しプランに反映する
 ○各担当職員が、毎月一度はご本人様の希望に沿えるよう、定期受診後のドライブ・買い物支援、天気の良い日を利用した散歩支援を行う

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホームおくら”は2020年4月から1ユニットで運営している。近隣の系列施設等との連携もあり、職員同士の結束も強く、日々の情報交換を密に行いながら、ご利用者の笑顔が増える取り組みを続けている。食事は3食手作りで、畑の新鮮な野菜を収穫して美味しい料理が作られており、刺身・きびな・五島山菜の炊き込みご飯等も喜ばれている。日々のケアでは職員の専門的ケアとともに、ご利用者の一部の方に夜間眠りセンサーを活用しており、データに基づき、覚醒時のタイミングを確認してオムツ交換が行えており、バイタル変化も自動記録され、夜勤時の職員の心強さになっている。天気の良い日は日向ぼっこや花見等を楽しみ、受診時のドライブもされており、トリアスロンの際はホームの前で旗を持って応援している。地域貢献も素晴らしく、奥浦地区福祉協議会（夢のまちづくり協議会）の活動を通して、地域住民のための支援（福祉活動など）を続けている。今後も職員の人員体制を検討するとともに、「オンライン研修」等を活用して職員個々のスキルアップを図るよう支援していく予定である。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	↓ 該当するものに○印	項目	取り組みの成果	↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	特にミーティングにおいて理念の共有につなげている	「1、生命の尊厳 2、慈愛のこころ 3、常に最良・最新の介護 4、第一に利用者、次に家族、最後に介護者が満足する介護」という理念であり、代表、管理者からも理念に添った話をされている。「みんな家族なので仲良くしましょう」という思いを大切に、相手を思っている声かけが多くなっている。「最新の介護」ということで、夜間の睡眠状態やバイタル等を自動測定（記録）する機器を導入している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員が地域の自治体メンバーとして活動している	町づくり協議会に代表や管理者が参画し、安全パトロール（子ども達の見守りや災害時のパトロール）や中学校の廃品回収の協力、車椅子の寄贈を続けている。ホームに「敬老祝い品（園児の手紙入り）」を持参して下さったり、民生委員の方もティッシュ等を持参して下さる。パラモンキング（トライアスロン）の応援を行い、地域のお祭りで神輿が敷地内まで来て下さり、神父様の訪問や中学生も訪問して下さった。コロナ前は保育園児の訪問もあり、ご利用者も楽しいひと時を過ごされていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が地域の福祉委員として、買い物支援や研修等の活動を通して活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員の資質向上のための研修報告や事故・ヒヤリハット報告を主に行い、意見を求めているが、今年度は2回しか開催されておらず、あまり活用されていない状況である。	コロナ禍は書面開催にしていたが、2023年度は通常開催を2回（5月8日と11月30日）行うことができた。ホームの現状や取り組みを報告し、事故報告や災害対策の検討が行われた。	町づくり協議会に代表や管理者が参画し、地域の方々と協働した活動を日々続けているが、今後は更に運営推進会議を通して、ご利用者、家族、地域の方、市役所の方々も一緒にホームの取組み、地域の実状や課題を情報交換していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とは、話しやすく相談しやすい関係が築かれている	代表、事務長、管理者、ケアマネ等が市を訪問し、入居状況の報告（メール）をしている。長崎県主催の「人材確保の協議会」に代表が参画し、長崎県、五島市の担当者や職安所長、高校の進路指導主事、介護各種業態の代表者等と情報交換し、「やれることはしていこう」という思いで取り組みを続けている。代表は五島市GH連絡協議会の会長も務めており、市の担当者から施設間の人材協力体制等の構築について提案を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	主に3ヵ月に1回の研修を通して取り組んでいる	職員と家族の関わりもあり、穏やかに過ごされている方が多い。代表が中心になり、身体拘束廃止委員会を年4回開催し、「身体拘束は何故問題なのか」「介護保険指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」「スピーチロック」等を職員間で共有し、事例検討している。虐待防止委員会も重要事項説明書に盛り込み、担当を決めて定期的に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	主に3ヵ月に1回の研修を通して取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用しているご利用者様がいらないが、必要時支援できるよう体制を整えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に時間を確保して説明を行い、ご家族様にはいつでも電話可能であることを伝え、理解を図っている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所施設と別棟に管理者は在住し、要望等が出やすいように努めている	県内及び五島市内の感染状況に応じて、月1回の面会をしていただき、電話やLINE（動画撮影）等で生活状況を報告している。日々の写真を掲載した暮らしぶりを毎月報告し、家族の要望を伺っており、体調変化があれば家族にすぐに連絡している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを実施している	職員は代表・管理者・主任などに相談している。代表も人員体制に応じて見守り等を行い、必要物品の購入の検討をして下さる。管理者や主任等を中心に職員は結束し、「細く長く」働けるように努めている。職員同士の助け合いもあり、必要に応じてシフト変更も行われ、有給や希望休も取れている。今後も「オンライン研修」等を活用してスキルアップを図っていく予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算等については給与規則を改定し、加算の内容等を全職員に周知している。また、介護支援専門員、介護福祉士取得についても、一部会社負担する等環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のスキル、資格等に応じた受講、上位資格取得の啓蒙、休暇の付与等の支援を行っている。また、今後、「オンライン研修」等を活用してスキルアップを図るよう支援していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人役員、事務長が必要に応じて意見交換を行っており、必要な情報等については、職員へ周知している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ずご本人様の困っていること、不安なことなど要望を引き出すように努めている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に必ずご本人様の困っていること、不安なことなど要望を引き出すように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず、ご本人様、ご家族様の要望を聞いた上で、必要な支援は何か考え提供するように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に職員が支援する際、相手の立場になってご利用者様がどのように受け止めるか、職員に考えてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の協力・支援があってはじめて、ご利用者様が安心して暮らしていけることを念頭に置いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様やご家族様の希望があれば対応しているが、施設側から積極的に支援していない	隣接する施設に神父様が来て下さり、お祈りをされている。近くの馴染みの小学校に車椅子で散歩をされたり、馴染みの散髪屋に行かれる方もおられる。コロナ以前は併設のデイサービスの知人に会いに行かれたり、馴染みのお店に行かれたり、「海や花が好き」と言う方もおられ、ドライブにお連れしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やバイタルチェック、おやつ等、フロアへ誘導し孤立しないよう、職員が仲介者となって会話する機軸を設けている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後においても、気軽に相談して下さるよう声かけを行っている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実施している	難聴の方もおられるが、ご本人のペースでゆったりとお話をしている。生活歴や以前の仕事、日々の思いを教えて下さり、職員にアドバイスを下さる方もおられる。意思疎通が難しい方も増えているが、「草取りをしたい」「お祈りをしたい」「ゴミ袋折りをしたい」「もう少し食べる・食べない」「ありがとう」等の意思や要望を引き出し、日々の想いに寄り添われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主に面会時、入所時に聞き取り調査を行っている、それ以外では日常の会話の中で行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実施している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実施している	前回の外部評価以降、ケアプラン（1表、2表）を見直し、それを踏まえてご本人の目標を作成してこられた。ご本人の要望を伺うと共に、家族の意向も確認しており、計画作成担当（ケアマネ）と職員が会議で検討している。自立支援も大切に「洗濯物たたみ」「エプロンたたみ」「袋作り」等の役割も盛り込まれている。興味・関心シートもチェックし、ご本人らしさを計画に活かせるようにしており、詳細な3表（日課計画表）も作られ、ご本人ができることや留意点も盛り込まれている。	今後も更に既往歴、主訴・症状等を追記し、アセスメントに繋げるとともに、IADL等（食器洗い等）の能力や役割、趣味などもアセスメントに盛り込み、ケアプランに繋げていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	11月より眠りスキャンの研修を行い、実施している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実施している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	実施している	職員の観察力も増し、気になる事は主任、管理者、デイの看護師、代表等に相談し、必要時はデイの看護師が駆けつけて下さる。昼間の早期対応ができており、夜間の急変などは少ない。管理者、職員が受診時に医師と情報交換を続けており、体調にに応じて家族が同席する時もある。毎月の文書やLINEで家族に状況報告し、症状の変化等があった際は、電話で受診内容を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実施している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実施している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合、特別養護老人ホームへの申し込みをお願いしている	看護師がホームに勤務しておらず、原則「看取り支援は行っていない」事を入居時に伝えている。終末期は病院、特養を希望される方が多く、特養等の申し込み支援をしている。「ホームで最期まで」と希望される方もおられ、主治医と訪問看護師、ホーム職員、家族などと24時間の連携が行われ、入院ぎりぎりまで誠心誠意のケアが行われている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生・緊急時のマニュアルを作成しており、定期的に事故防止等の研修を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に有料老人ホームも含めて避難訓練・消火訓練を実施している	ハザードマップ上の危険は想定されていないが、数十m先に土砂災害特別警戒区域がある。町づくり協議会や消防団と連携した防災訓練等を本所で行い、年2回ホームで消防署と夜間想定訓練をしている。有料施設を含めて夜勤者が5人勤務し、協力体制もあり、避難場所は保育園や教会であり、水や米、野菜（玉ねぎ）の備蓄がある。避難時の配車計画とBCP（事業継続計画）を作成しており、今後も改良していく予定である。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実施している	人生の先輩として、常に尊敬を込めて支援するように努めている。ご利用者の不安や寂しさに寄り添い、ご利用者同士の関係性に合わせた対応方法を検討している。必ず〇〇さんと声かけし、人生の先輩として尊敬の念をもって関わるように促している。ケア内容と対応チェックを毎月行い、更なるレベルアップに繋げており、言葉遣い等も含めて着実に成果が出ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	周りの状況を把握し、ご本人様が話しやすい環境づくりに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・おやつ・入浴等、ある程度の時間の目安があるため、必ずしも希望に沿っているか不透明なところがある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様の協力もお願いしながら、実施している		

自己	外部		自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の下ごしらえをしたり、食後の皿洗い、テーブル拭き、ゴミの片づけ棟を行っている	3食手作りしている。職員が献立を考えているが、ご利用者から要望があった際は叶えるようにしている。畑の野菜（ブロッコリー、人参など、大根等）を毎朝収穫し、新鮮な野菜を食べられ、刺身、きびな、五島山菜の炊き込みご飯等も喜ばれている。お手伝いができる方は限られているが、ツワの皮むきや豆の筋取り等をして下さる。嚥下状態に応じて刻み、ミキサー食等を準備し、誤嚥予防も努めている。家族が誕生ケーキや好きなものを差し入れて下さっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	厳密に食事のカロリーを計算していないが、食事量・水分量をチェックし、場合によっては、栄養補助食品等での対応を行っている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用様の可動域に応じて支援を行っている			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位可能なご利用者様に対しては、できるだけトイレやPトイレを利用してもらっている	下着を着用し、排泄が自立している方もおられる。パッドやオムツの必要性を検討し、トイレ誘導も個別に行われ、失禁も減っている。居室のポータブルで排泄される方やトイレでの座位が困難で、オムツを使用する方もおられ、日中リハパンに変更し、随時交換している。日々の見守りとともに、夜間眠りセンサーも活用し、覚醒時のタイミングで交換できている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多いお芋やバナナ等の摂取、ヨーグルトの提供を行い、毎日食事前に発声訓練を行っている			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設側で入浴日を決めており、実施できていない	湯舟に入ることを好まれるか、温度はどのくらいが良いか、順番は何番目が良いか、洗髪と洗身はどちらからが良いか等を確認している。シャワー浴や足浴等で保温に努めており、できる範囲は洗って頂いている。「入りたくない」という方にも寄り添い、時間や曜日を変えている。入浴時は職員との会話を楽しみ、入浴後の保湿（ワセリン）もしている。着脱もゆっくりと自分でできるよう見守る予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	実施している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主に軽作業やぬりえなどの手作業、散歩等の支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	実施している	軽度の心身状態の方も増え、桜の花見、受診の時のドライブをされている。玄関の外で日向ぼっこをしたり、花壇の花見やホーム周辺の桜の花見をされている。トライアスロンの際にホームの前で旗を持って応援したり、コロナ以前は買い物やドライブ、外食にお連れしていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様に紛失する可能性があることを了解してもらい、少額を所持できるよう支援している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施している	職員が季節の飾りつけ（正月・クリスマス・豆まき等）や敷地内の花を飾られている。ホールではゴミ袋折りや塗り絵をされており、掲示板に誕生日やレクの写真を掲示し、ご利用者の笑顔を引き出している。長い廊下を歩行訓練される方もおられ、空気清浄機や脱衣所の冷暖房を設置している。掃除も丁寧に、換気も心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルと別に畳の間があり、自由に行き来できるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施している	全て洋室である。担当職員と居室のレイアウト等を検討し、食器（茶碗、湯のみ、箸）、衣類、衣装ケース、布団と枕、テレビ等を持ち込まれている。電動ベッドが3台あり、背上げや昇降機能を利用し、職員の腰痛負担に繋げている。ご自分で起き上がる方で、転倒の危険性がある方はベッドマットの下にセンサーを敷き、急ぎ訪室している。各居室に電話回線があり、電話を持ち込めるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の移動範囲はできるだけ段差を解消し、手すりを設置している		